

株式会社クラレ「2024 年度第 3 四半期決算説明会」質疑応答要旨

日 時 2024 年 11 月 13 日（水） 14:00～15:00
場 所 クラレ本社 ※電話会議にて実施
説明者 代表取締役 専務執行役員 経営企画室担当 多賀 敬治
IR・広報部長 滝沢 慎一

1. 主要製品の数量伸長率

	23 年度実績 →24 年度見通し	24 年上期実績 →24 年下期見通し
ポバール樹脂	+10%強	▲10%強
光学用ポバールフィルム	横ばい	▲5%弱
高機能中間膜	▲5%強	▲10%弱
水溶性ポバールフィルム	横ばい	+10%弱
〈エバール〉	若干プラス	+約 10%
エラストマー	+20%弱	若干プラス
〈ジェネスタ〉	+20%弱	+約 15%
活性炭	+10%弱	+10%弱
ビニロン	横ばい	若干マイナス

2. 質疑応答

Q1 24 年 3Q の利益達成度、24 年度業績予想見直しの背景について。

A1 ビニルアセテートセグメントについては想定を上回って進捗しており、3Q の実績を加味して通期見通しを前回の予想から 30 億円上方修正している。特にポバール樹脂が上振れの要因となっている。

一方、イソプレンセグメントについては 10 億円下方修正している。数量はそれほど変わらないものの、足元でブタジエン価格が上昇しておりその影響を受けている。またタイ工場については 2Q に実施した定修で設備の調整は済んでいるが、3Q に少し運転が不安定になった時期があり、ロスが発生した。

機能材料セグメントについては、活性炭が前回の見通しに対し少し弱かったこと等により、10 億円下方修正している。

繊維セグメントについては、主にビニロン、クラリーノの販売が弱かったことを踏まえ、15 億円下方修正している。

全体としては、結果的にプラス側とマイナス側がほぼ同額となり、合計の数字は変わっていない。個別の事業でいうと少し強弱が出ているということになる。

- Q2 米国の政権交代による米国飲料水 PFAS 規制への影響について。
- A2 PFAS 規制の強化に伴う活性炭への引き合いは相変わらず強く、一部の大手水道会社と長期契約を締結した。基調は変わっていない。今年は期待していたほど伸びていない部分があるが、来年に向けて順調に進捗している。政権交代による影響はまだ不透明であるが、大きな流れとしては変わらないのではないかと考えている。今後も状況を注視していく。
- Q3 在庫水準について。
- A3 3Q 末の在庫金額は少し高めの水準であり、月数で 3.7 カ月ほどになっている。全体の需要が思ったほど強くなかったことがその背景にあり、今回見直した通期業績予想には 4Q で生産調整を行うことを織り込んでいる。期末の在庫金額については、昨年末と同程度には持っていきたいと考えている。

注意事項

本資料は、説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、理解しやすいように当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

以上